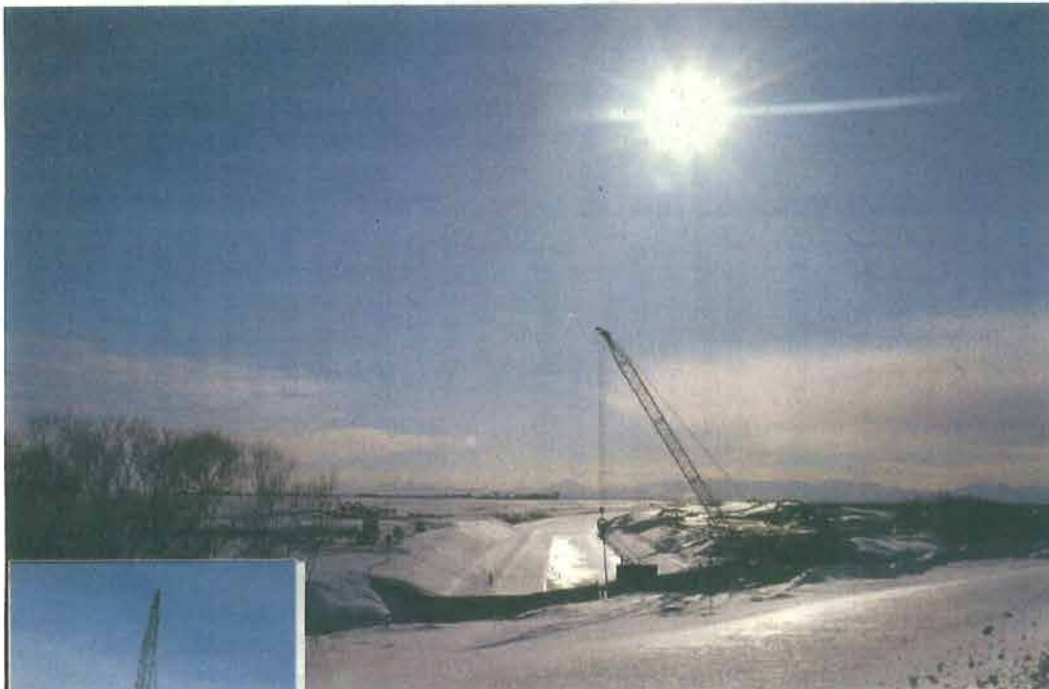


## 幾春別川

### 新水路への切り替え

「流域の暮らしを守る」



仕切っていた鋼矢板が抜かれました



関係者代表がスイッチを押して、切り替え

平成17年2月2日(水)、北村 慎達布の幾春別川左岸で「幾春別川切替式」が行われました。  
新水路事業は、幾春別川下流部を洪水から守るため、平成4年の水路掘削をかわきりに、13年の歳月をかけて石狩川と幾春別川の合流点を下流に移しました(新水路区間約5.4km)。  
式には地元関係者や行政、工事関係者など90名が列席し、北村の村上村長、石狩川開発建設部の井出康郎次長、慎達布新水路事業対策協議会の池田満会長が代表して切り替え開始のスイッチを押して、新水路をふさいでいた鋼矢板を引き抜き、新水路へ切り替えられました。  
また、求年度には旧美唄川が新水路と合流します。  
鋼矢板が抜かれると、この日を待ち望んでいた参加者から一斉に拍手がわき上がりました。  
また、求年度には旧美唄川が新水路と合流します。

### 地元の方々にお願いしました!

● 新水路の切り替えを迎え、大変うれしく思います。子供の頃に住んでいたのは、幾春別川のすぐそば、小学6年生の時に堤防が決壊したとき、堤防を守るうと土のうを積んでいた大人たちが、走って逃げ、中には電柱に登る人もいた事をはっきりと覚えています。その後も何度となく内水氾濫で大変な思いをしました。新水路の着工が決まり、地域のシンボルである小学校、公民館等、公共用地の移転は大変な課題でした。地元は勿論ですが村をはじめ多くの関係の方々のご理解とお力添えをいただき、多目的体育館・お寺・パークゴルフ場等、立派な地域の中心環境も整いました。長期に亘る工事期間でしたが、工事実施計画・内容等その都度住民説明会が行われ、地域連携のもと、工事が進められたのも良かったと思います。これで洪水の不安を解消できる「水害に強いまちづくり」が出来たと思います。



北村慎達布 農業  
田中 晴次 氏  
(たなか はるじ)

● 長い期間を要した工事でしたが、事故がなく進んで来たことは、本当に良かったと思います。また、地権者をはじめ地元住民や村、岩見沢河川事務所などの関係機関、施工業者が多額の話し合いの場を持ち、相互が理解し合える良い関係なくして、この大事業は成し遂げられなかったはず。  
今、新水路の切り替えにあたり思うことは、計画以来本当に良いチームワークだったと思います。  
私も慎達布で農業をしており、洪水で何度かつらい思いをしました。計画の話があった時は地域全体のことを思い、地権者としてすぐに承諾しました。その後、対策協議会の顧問的立場でしたが、協議会や農協、村と共に力を合わせて問題を解決することが出来ました。新水路事業で地域の安全とともに、ますます地域がまとまったように思えます。



北村慎達布 農業  
大原 弘一 氏  
(おおはら ひろいち)

### 連載④ 流域の野鳥



#### 草原の日の丸「ノゴマ」

春が近づくと、草原の日の丸を思い出す。体の色は地味だが喉に真っ赤な色がつき、大きな声でさえずるノゴマ。五月中旬、インド、東南アジアなどの遠い国から繁殖のために東北の一帯と北海道に飛来する夏鳥。シマアオジ同様、環境のよい場所がなければ飛来し繁殖が出来ない。ノゴマも野鳥観察をしている人たちの憧れの鳥で、別名「日の丸」という愛称で呼ばれている。幾春別川沿いに多く生え、イタドリの大さな葉の上で胸を張る。「ヒビヒューロ、ヒビヒューロ、チヨロ、チヨロ、チヨロ、チヨロ」などと複雑に声高らかにさえずる姿がたまらない。野鳥観察初心者の方、真っ赤な喉のノゴマを初めて見たとき「あ！ケガをしている、保護しなければ」と思い、捕まえる方法を真剣に考えた。多思えば笑い話だが、それほど喉の赤い色が目に焼き付く。  
夏鳥のほとんども、毎年同じ場所へ飛来する。うっそうとして雑草だけと思っていた河川堤防もじっくり観察すると色々々自然界の生活と密かがある。春から秋にかけて観察される野鳥は安全な繁殖地を求めて飛来し、虫などを捕食し子育てをする。秋から春にかけて観察される野鳥は、草木の葉を求めて厳しい冬を安心して越冬できる場所を求め、とちらも生き抜くために適い旅をしながら飛来する種類ばかり。  
野鳥は見られて初めてその存在が認められる。自然が、なすがままに生きていくことしか出来ない野鳥の生息場所を、後世の人たちに残したのだらう。



# 洪水から流域を守る 新水路事業

— 新しい水路の「誕生」とその「経緯」 —

新しい水路に幾喜別川の水が流れはじめた瞬間、長年の洪水の恐れから流域を守る一大事業の最終段階を迎えました。計画から工事へと、幾多の人びとの願いと協力により築き上げられた「幾喜別川新水路」。今一度、その足跡をたどってみました。

【幾喜別川下流域の洪水】  
幾喜別川下流域と旧美唄川流域は、泥炭性の軟弱低平地で、隣接する地域よりも地盤が低く、また、洪水時には石狩川の水位の影響をまともに受けるため、石狩川へ流れ込みにくくなり、しばしば全域が浸水し、大きな被害をもたらしました。



昭和56年洪水 北村豊里

## 【流域を守る洪水の対策】

そこで、北海道開発局では流域を洪水から守るため、幾喜別川に旧美唄川を合流させ、石狩川の合流点を現在より下流に移し、今より1.42倍水位を下げることにし、幾喜別川の洪水を石狩川に流れ込みやすくする計画を立てました。

## 【幾喜別川新水路事業の経緯】

計画は平成3年度から「幾喜別川新水路事業」として実施され、新しく旧美唄川までの延長5.4kmの新水路掘削が始まりました。事業は掘削、築堤(丘陵堤)、護岸、樋門や道路橋などの建設が行われ、平成17年2月に新水路の切り替えが行われました。今後、旧美唄川と新水路を結ぶ工事などが進められています。



工事中の新水路(石狩川との合流点)

## 工事をした方々にお聴きました!

岩見沢河川事務所 石澤係長

幾喜別川新水路の切替式を無事迎えることができ、ホッとしています。13年間に亘る大工事で、諸先輩たちの苦勞を思うと感慨無量です。この事業により洪水の被害が少しでも軽減できると思うと、非常にやりがいがありました。今後、旧美唄川切り替えに向け、今までと同様に、地元にお住まいの方々や関係機関の理解と協力を得ながら、慎重に工事を進めていきます。



川崎主任 石澤係長

岩見沢河川事務所 川崎主任

新水路工事施工に当たり気をつけた点は、泥炭の軟弱な地盤に盛土する際の周辺に影響がないかの監視を続け、慎重に盛土工事を行いました。また、多数の建設機械が稼働しているため、事故が起きないように注意を払った点も担当している者でもめったに立ち会えないので、非常にいい経験をしました。

伊藤組土木株式会社 山平 靖雄さん



新水路切替式に参加し「水害に強いまちづくり」の推進に微力ながら参加できたことは、とても光栄です。一番の問題は大量の掘削土をいかに運搬するかということで、朝早くから夜遅くまで、トラックで土砂を運びました。また、撤去した既設の護岸ブロックを中詰め材として利用する袋型根固めなど、資源の有効利用にも力を入れました。今回の事業によって周辺住民の方々の浸水被害が軽減され、この事業が無事故・無災害で完成されることを切に望んでおります。



## 旧美唄川・雪中植林

### 協働ネットワークによる流域づくり

2月19日(土)北村で第3回雪中植林が行われました。雪中植林は、北大名誉教授で「北ぐにの森づくりサークル」代表の東三郎(ひがし)さんが考案した、カミネットコンを用いた誰にでも簡単にできる植林方法です。北村の旧美唄川では、石狩川流域300万本植樹計画の一環として、平成15年から行われています。

### 3回目を迎えた雪中植林

雪中植林は回を重ねる度に参加者が増え、今回は子供たちの参加も多く、約250人の参加者がありました。北村農村環境改善センターで東先生の「子どもたちに木を植えてもらいたい、大人になって自分たちがつくれた森を見てもらいたい」との思いが込められた、森づくりの大切さのお話に続き、約500本のカミネットコンを製作しました。そのあと、旧美唄川開基橋左岸周辺に移動して、ハンノキ・クリ・ドロノキ・ヤナギなどの植林を行いました。



石黒理事長(左)と東先生

地元をはじめ他の地域や団体とのネットワークが大切。第1回から植林の準備や運営を行っている「NPO法人山の会」の石黒理事長は「雪中植林は、他の地域から北村に来てくれる方や協力してくれる団体、行政関係者などとのネットワークにより行われてきました。今後も環境保全とともに多くの人に北村を知ってもらう、地域振興の一環になろう冬の大イベントとして進めていきたい」と取材に答えてくれました。



どのくらい大きくなったかな?

幾春別川に放流するために、サケの飼育を行っている岩見沢市内69カ所と三笠市内6カ所の施設に発眼卵が引き渡されて約2カ月がたちました。そのうち今回は、岩見沢市内にある2つの施設を訪ねてきました。

園長が熱帯魚の飼育が好きで、それをきっかけに平成2年に飼育を始めました。約15年にわたり続けてきましたが、最初の4、5年は温度管理などの苦労をしました。そのときに飼育のコツを覚え、今では400尾の稚魚を保護さんや園児とともに飼育し、春には園児と一緒に放流しています。



さくらぎ保育園のみせさん

園小学校は、「昭和62年に根室に転勤された先生から発眼卵をいただき、他に先駆けてサケの飼育を始めました。飼育委員会を設け、毎年5年生から12名ほどが参加し、水温の管理や水の交換、餌やりや成長具合の記録を行います。春には係全員で放流しています」と樺田校長先生のお話を聞き、飼育係の子どもたちがいる水槽へ。

美園小学校のみなさん



「サケがふ化し、泳ぎ始めると園児たちはとても喜び、生き物を身近で飼い成長することに興味を持ってくれます」また、「今年の稚魚はとても元気に育っています」と園長先生は話してくれました。

「小学校生活で何か記念になることを残したい」「放流の後も元気に育ってほしい」と話してくれました。

桂沢ダム管理所では「桂沢湖や周りの自然が大好きな人」会議「ニュース」を創刊しました!

桂沢湖や周りの自然が大好きな人「会議」NEWS! 第1回WS 遂にスタート 平成17年10月25日... 桂沢湖や周りの自然が大好きな人「会議」の創刊号の表紙。写真、イラスト、記事のサムネイルが掲載されている。

北海道は昔、暑かった? 北海道と言えば、まず「雪」とか「寒い」などと思ってしまうのではないのでしょうか? 北海道出身ではない私にとっては、当地へ引越す際に最初に思いついたことが右記のことです。確かに、現在の北海道は亜寒帯に属し、冬には雪まつりができるくらい「寒い」地域です。では昔からずっと寒かったのでしょうか? 答えは「暑くない」です。

出します。このように約1億年前の北海道は非常に暑く、温暖な気候でした。そして幾春別川沿いから見つかる化石こそが、その証拠なのです。今回写真に載っているアンモナイトは、4月10日(日)まで当館で開催している展示「世界に公開しています。ぜひこの機会にご覧になってください。」(三笠市立博物館 研究員 栗原憲一)



(写真1) ナンヨウスギの仲間。スケールは1cm



(写真3) モルトニセラス



(写真2) ドゥビレイセラス

訂正 前号の執筆者は三笠市立博物館学芸員 加納学さんでした。

わがまちの

名人



ワカサギ釣り名人

藤井 正司さん  
80歳 北村

「私が子どものころはワカサギ漁はしていませんでした。美唄の中村から嫁いできた妻から『葦沼でも捕れるから雁沼にもいるかも』と聞いて、水が張る前にさっそく真似をしてみました。蚊帳を利用して、四手綱でたくさん捕れましたよ」と50年前を振り返る藤井さん。ワカサギを捕って半世紀になる名人にお聞きしました。

「北村のワカサギ漁の歴史について教えてください。」  
私の様子を見て、雁沼沿河辺に

「たくさん釣れる秘訣は？」  
第1は、餌はこまめに取り替えること。

第2は、時間帯によって群れをなして泳いでいる場所、「棚」が変わるので、3人で行って「一番深いところ」、「真中」、「浅いとこ」を分担し、早く棚を探します。

第3は、手から竿を絶対に離さないこと。軽く動かすことと静止状態を1対2の割合で続けることです。よく「竿立て」をしている人かいますが、あれは駄目ですね。あたりを逃してしまいますから。

第4は、かかったら手際よく針からははずして、竿を右手に持ち、左手で「より戻し」をたぐり寄せ、針から糸をワカサギを取り出すが、仕掛け針は7つ付いています。3つほどかかったら引き上げ、すぐ穴を狙います。そのほうが効率的です。私は最高、3時間で200匹ほど釣りました。

「孫に、ワカサギをたくさん食わせてもらうのが何よりの楽しみ」と元気に笑う藤井さんです。

「どのようにして食べられてきましたか？」  
村内の人たちが家庭で焼いたり、干したり、煮るなどして食べてきました。  
昭和58年には加工場ができて「焼く(いかたやき)」を作り始めました。温泉ホテルの売店などに北村の名産品として置いてもらい、よく売れました。今はさまざまな事情があり、加工場は4年前に休止しましたが。

「孫に、ワカサギをたくさん食わせてもらうのが何よりの楽しみ」と元気に笑う藤井さんです。

水辺の風景



「新水路によって流れがなくなる、旧幾春別川河道」

写真募集

あなたの好きな水辺の風景を写してみませんか。

応募内容

- プリント、デジタルデータ、ポジフィルムなど、形態は自由。あなたの「想い」など、お送りいただく写真の風景についてのコメントを原稿用紙などに100文字以内にまとめて、写真と一緒に送ってください。順番に「大好き! 幾春別川」に掲載させていただきます。
  - ※1人何点でも応募可。
  - ※写真の返却はいたしません。
  - ※応募は随時受付
  - 送付先: 下記連絡先
- 「大好き! 幾春別川 水辺の風景係」まで

ON AIR 週刊「開発かわらばん」

コミュニティFMはまなす 76.1MHz

放送日: 毎週水曜日15:00~(※再放送木曜日18:00~)

週刊「開発かわらばん」は平成12年に、「週間川らばん」として地域の川に関する情報を提供する番組として開始しました。平成15年から「開発かわらばん」として洪水対策など、安全な川づくりや流域の川に関わるイベントの案内、その参加体験など川の情報の他、道路や農業の情報について放送しています。



岩見沢河川事務所の竹原調整係長(左)と「三笠の湖・川・緑を愛する会」の高藤会長

週刊「開発かわらばん」で「河川」のコーナーを担当している岩見沢河川の竹原調整係長にお聴きました。

Q 年間の放送回数は何回ですか?  
A 「河川」としてはダム関係も合わせると18回の放送を行っています。ネタ作りが大変です(笑)。

Q この放送を通してリスナー(聴取者)に何を伝えたいでしょうか?  
A どちらかと言いますと、この地域の方々は過去の洪水などにより、川に近づくのは危険だといったイメージを持っていて、河川行政の話だけでなく幾春別川を利用し活動していただけてます。市民団体のイベント紹介など身近な情報も流しております。

そのことよって幾春別川が市民のみならず、少しでも身近に感じていただければ、本当にうれしいです。

行事予定

●サケの稚魚放流壮行会

- ・開催日: 4月14日
- ・開催場所: 岩見沢市
- 川西大橋下流左岸
- ・主催: 幾春別川をよくする市民の会

●幾春別川カップin三笠〜カヌー競技

- ・開催日: 6月18, 19日
- ・開催場所: 三笠市西桂沢
- ・主催: 三笠カヌークラブ

●フラワーライン

- ・開催予定日: 6月下旬
- ・開催予定場所: 花壇の植栽: <狩野橋左岸下流付近> 草取り: <狩野橋左岸下流付近>
- ・主催: 幾春別川をよくする市民の会

●河川愛護月間・空き缶拾い

- ・開催予定日: 7月2日
- ・開催予定場所: 旧美唄川北米橋下流左岸

- ・主催: NPO法人山のない北村の輝き、北村ライオンズクラブ

●石狩川下流〜川下り

- ・開催予定日: 7月中旬
- ・開催予定場所: 石狩川 深川市 ~月形町
- ・主催: 石狩川下流実行委員会

お便りお待ちしております!

本紙は、楽しい話題をつくるために読者みなさまからのご意見やご感想をお聴きしております。

また、「〇〇についてぜひ取り上げてほしい!」という話題もお待ちしております。ともしお寄せください。

【連絡先】  
石狩川開発建設部 岩見沢河川事務所内 幾春別川ニュース編集委員会 事務局 〒068-0007 岩見沢市7条9丁目 ※ご質問の内容は、郵送か、ファックス(0126-25-1697) にお問い合わせください。